

クローゼットドア 折れ戸 フリータイプ①

商品特長
商品一覧

室内ドア

室内引戸

クローゼット
ドア

戸襖

規格表

室内ドア

室内引戸

クローゼット
ドア

戸襖

有償部品

特注
対応品

ガラス寸法

基本寸法
納まり図

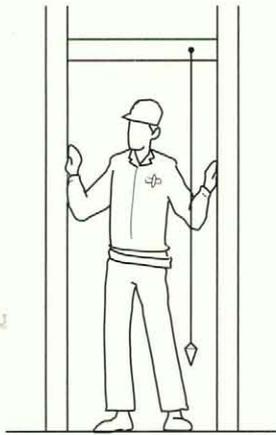
組立施工説明
お手入れ方法

発注書

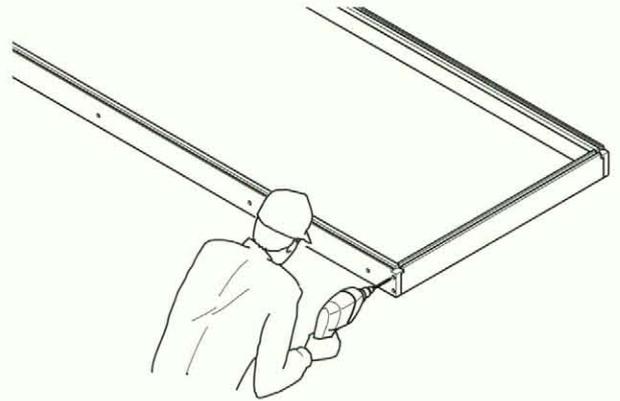
用語解説
索引

■施工フロー

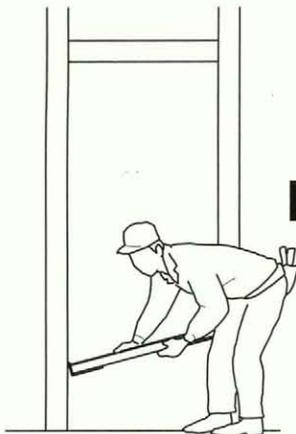
1 水準器・下げ振り等で開口部の水平・垂直を確認してください。



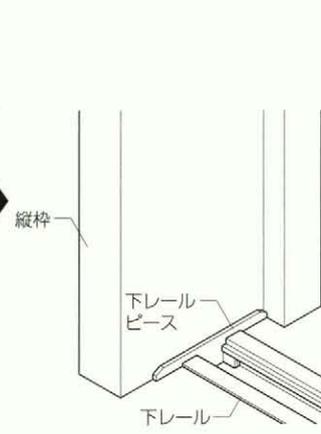
2 埋込下レールを使用する場合は、縦枠下部をカットします。上枠・縦枠を組みます。薄下枠を使用する場合、薄下枠を組みます。



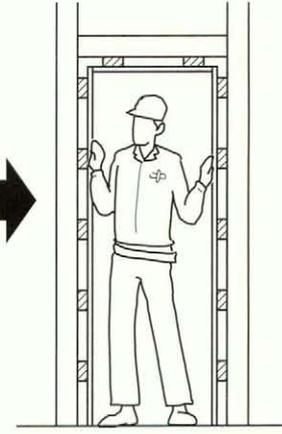
3 (埋込下レール使用時)
床をはり、下レールを仮置きします。



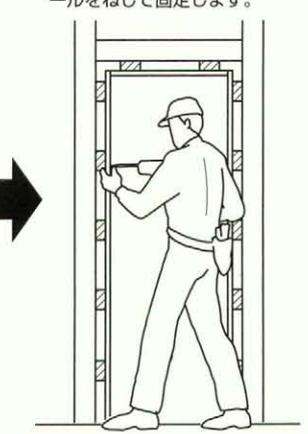
4 (埋込下レール使用時)
下レールピース端部を縦枠の段差にあって、縦枠の位置を決めます。



5 枠と柱・間柱・まぐさとの間に隙間をつくりかい木を入れます。



6 三方枠をねじと木工用ボンドで固定し、薄下枠を釘と木工用ボンドで固定します。下レールをねじで固定します。



7 ケーシング取付け後、本体を枠に吊込みます。

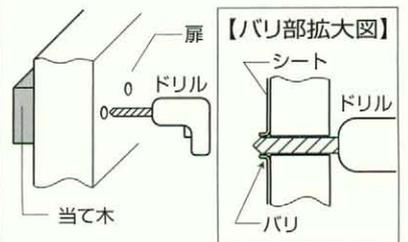


8 扉の片側に貫通穴をあけ、把手をつけます。最後に建付け調整を行ってください。



把手取付け時のお願い

● 把手穴を貫通する際は、バリ発生防止のため扉表側に必ず当て木をしてください。それでもバリが出た場合は、無理にはがさず、そのまま把手を取付けてください。(多少のバリは把手の下に隠れます。)



お願い

施工時の建具養生等、粘着テープ類の直貼りはお止め下さいますようお願い申し上げます。

建具類の表面シートはトップコートとよばれる表面強化により保護されています。ただし、粘着力の強いテープ(ガムテープ・養生テープなど)を長い時間、建具表面などに直貼りすると、そのテープをはがす際、表面シートを傷めたり、またテープそのものの粘着剤が表面に付着したまま残ることがあります。

商品特長
商品一覧

- 室内ドア
- 室内引戸
- クローゼット
ドア
- 戸襖

規格表

- 室内ドア
- 室内引戸
- クローゼット
ドア
- 戸襖
- 有償部品

特注
対応品

ガラス寸法

基本寸法
納まり図

組立施工説明
お手入れ方法

発注書

用語解説
索引

■施工される方へのお願い

- 本説明書で使われているマークには以下のような意味があります。
- ▲注意：取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負う危険及び物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。
- この取付説明書は、必ず施工される方にお渡しください。なお、施工後は、施工者に必ずお渡しください。

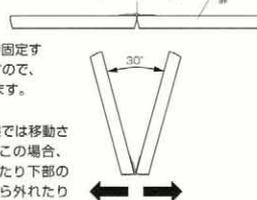
▲注意

- 吊車は本体に必ずねじ止めし、ガタツキがないように固定してください。本体が脱落するおそれがあります。
- 上レールは仮固定されていますが、必ず指定のねじで躯体へ固定してください。本体が脱落するおそれがあります。

■扉の開閉操作上のお願い

扉を開閉する際は、下記事項を守って操作してください。

- 扉をフラットのまま移動させます。



- 30°の角度で扉が一時固定されるようになっていますので、この状態で移動させます。

※角度が30°未満の状態では移動させないでください。この場合、動きがギクシャクしたり下部のローラーがレールから外れたりする場合があります。

■施工上のおお願い

- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きのドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれる場合があります。
- 本製品の組立て・施工時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や垂下がり・ゆがみ等の原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます)
- 枠を取付ける際、水準器・下げ振り等で水平・垂直を確認してください。
- 造作材・建具枠を取付ける時には必ず木工用ボンドを併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に木工用ボンドを塗布してください。
- 本製品は上吊り方式のため、梁またはまくさで重量を受けますので、扉重量に耐える断面の梁またはまくさをご使用ください。
- 納品時に各部品・部材を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず施工前にお買求め店までご連絡ください。(施工後の色調・不具合・キズ等による交換は出来ません。)
- 運搬・加工の際は、傷付けないように丁寧に取り扱いください。また水・直射日光の当たる場所に、開梱状態で置かないでください。反り・ねじれの原因になります。
- 造作材・建具枠の下地材は、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用してください。湿潤材は使用しないでください。室内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから施工してください。
- 造作材・建具枠と柱・間柱・まくさとの間には必ず隙間をつくり、かい木を入れてください。かい木は合板等の乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に必ず防水処理をしてください。
- 枠の組立て後、ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損するおそれがあります。

■部品・部材の明細

■部材の明細

折れ戸本体	折れ戸用枠	折れ戸用下枠
<p>●クローゼット本体</p>	<p>●上枠</p> <p>●上レール</p> <p>●縦枠(2本)</p>	<p>●下レール</p> <p>●下枠</p> <p>または</p> <p>●埋込下レール</p> <p>ケーシングセット(ケーシングタイプのみ)</p> <p>ケーシング材(上用)</p> <p>ケーシング材(縦用)</p>

■本体用部品

	吊車	皿タッピン ねじ φ3.5×20 (吊車 取付け用)	ガイド ローラー	把手セット (ねじ付)	調整スパナ	段付きビスボルト固定金具
W07・08	2	8	2	1	1	1
W12・13・16・18	4	16	4	2	2	2
W24・26・27	6	24	6	3	3	3
W33・34・36	8	32	8	4	4	4

■枠用部品

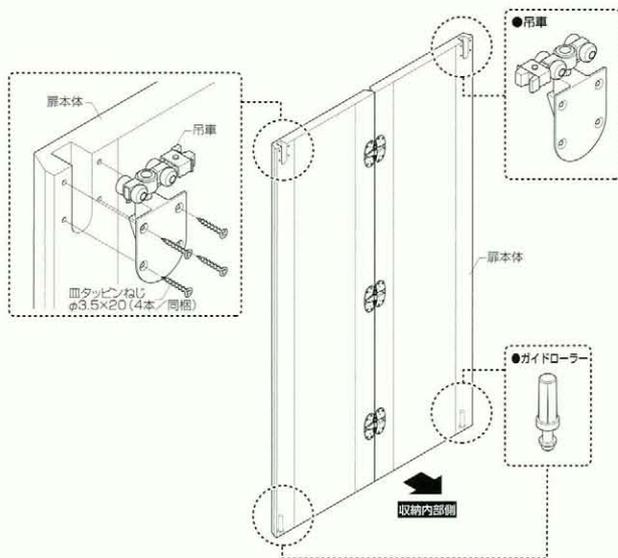
	ジョイント金具用 ねじ(皿小ねじ) M4×50	トラスタッピン ねじφ4×55 (上枠躯体取付け用)	皿タッピンねじ 頭部シート色塗装 φ4×50 (縦枠躯体取付け用)
W07・08	4	4	12
W12・13	4	5	12
W16・18	4	6	12
W24	4	8	12
W26・27	4	9	12
W33	4	10	12
W34・36	4	11	12

■下枠用部品

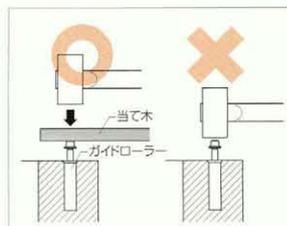
	DNビス(皿木ねじ)φ3.8×65 (下枠組立て用)	皿タッピンねじφ3.5×20 (枠取付け用)
薄下枠W07~W08	4	2
薄下枠W12~W18	4	3
薄下枠W24~W36	4	5
埋込下枠W07~W18	-	3
埋込下枠W24~W36	-	5
	下レールピース	
薄下枠W07~W18	-	-
薄下枠W24~W36	-	-
埋込下枠W07~W18	2	2
埋込下枠W24~W36	2	2

■本体の吊込み

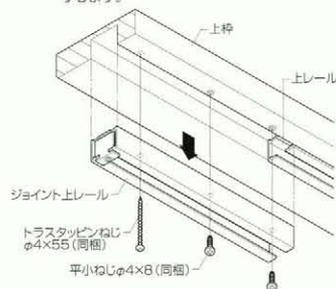
①扉上部の切欠き部に、吊車を差し込み、皿タップねじで固定します。ガイドローラーを扉の加工穴に圧入します。



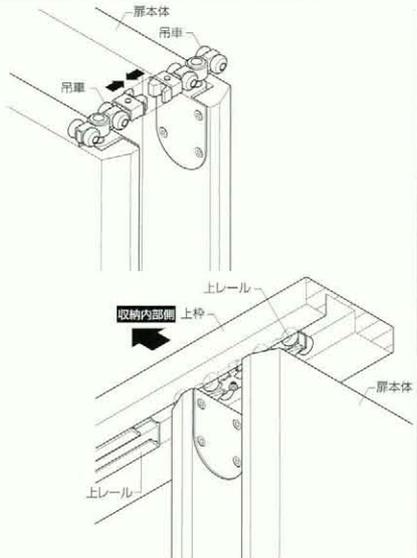
※ガイドローラーを圧入する際、樹脂部に当て木を使用してください。



②扉を吊込む前にジョイント上レールを取りはずします。



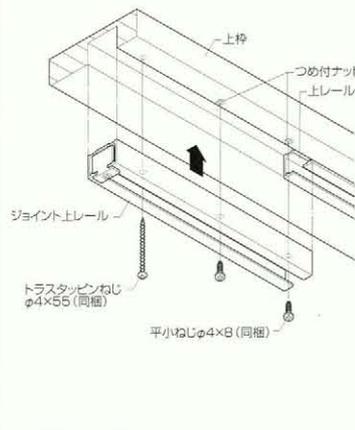
③扉を折りたたんで扉上部の左右の吊車をかみ合わせます。次に上枠のレール端から、吊車を差込みます。



④ガイドローラー先端を指で押さえ、下部レールへ差込みます。



⑤扉を吊込んだ後、ジョイント上レールを取付けます。(図-8)
※ジョイント部に段差が出ないように注意してください。

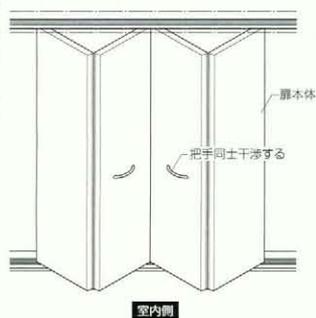


⑥把手を取付けます。

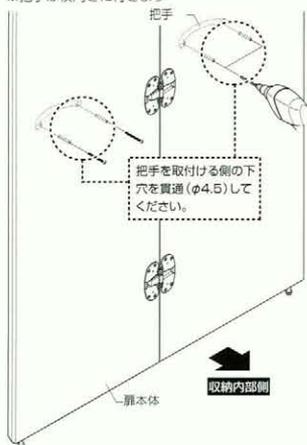
2枚の扉の裏面に把手取付け用の下穴が中間位置まであけてあります。把手を取付ける側の扉の下穴を貫通(φ4.5)してください。下穴をあける際には、本体表側にあて木をし、バリが出ないようにしてください。

【把手の位置について】

扉を複数枚吊込んだ場合、扉を折った状態で向かい合わせになる扉それぞれに把手を取付けると、開閉した時に把手同士が干渉します。製品にキズが付きまますのでできるだけ向かい合わせにならないように取付けてください。

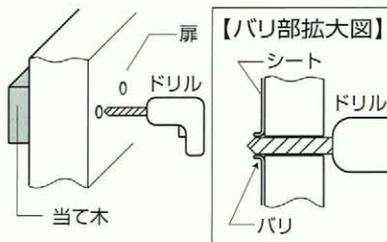


※把手は横向きに付きます



把手取付け時のお願い

●把手穴を貫通する際は、バリ発生防止のため扉表側に必ず当て木をしてください。それでもバリが出た場合は、無理にはがさず、そのまま把手を取付けてください。(多少のバリは把手の下に隠れます。)



商品特長
商品一覧

室内ドア
室内引戸
クローゼット
ドア
戸襖

規格表

室内ドア
室内引戸
クローゼット
ドア
戸襖
有償部品

特注
対応品

ガラス寸法

基本寸法
納まり図

組立施工説明
お手入れ方法

発注書

用語解説
索引

クローゼットドア 折れ戸 フリータイプ③

商品特長
商品一覧

室内ドア
室内引戸
クローゼット
ドア
戸換

規格表

室内ドア
室内引戸
クローゼット
ドア
戸換
有償部品

特注
対応品

ガラス寸法

基本寸法
納まり図

組立施工説明
お手入れ方法

発注書

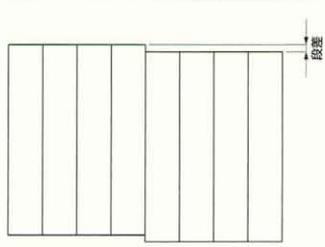
用語解説
索引

調整

※本体の段違い(上・下)を調整します。

【段違い(上・下)の調整】

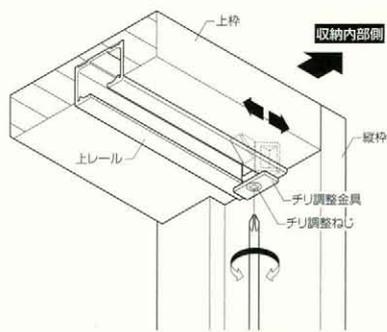
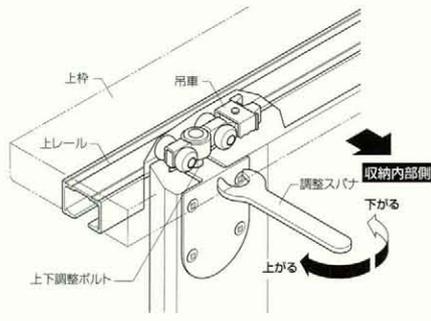
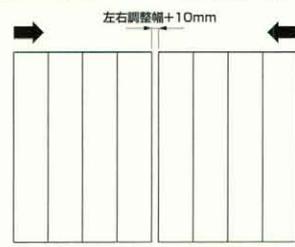
- 扉の取付け後、上下の目地が合っていない場合、左右の吊車の上下調整ボルトを付属のスパナで直し調整してください。(上下調整量±3mm)



【チリ(左・右)の調整】

- 扉間のチリが大きい場合、上レールの端部(左右)に付いているチリ調整金具で調整できます。チリ調整ねじをドライバーで回し、調整してください。チリ調整ねじを右に回すと、チリが小さくなります。

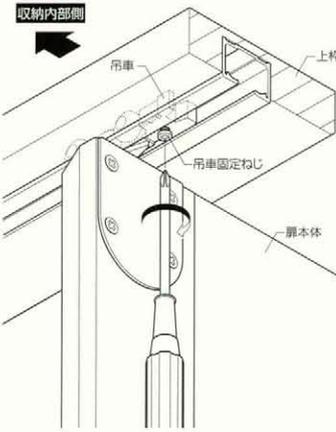
注)チリ調整金具は、上レールの左右に付いています(W07・08は、片側のみ)ので、左右均等に調整してください。



【フリー→ピボットの変更】

●扉上部の固定

- ①扉本体をピボットにしたい位置まで移動させます。
- ②固定したい扉側の上部吊車に付いている「吊車固定ねじ」を回し、しっかり吊車が固定されるまでねじを回します。
- ③扉を左右にゆすって扉が固定されたかどうかを確認します。

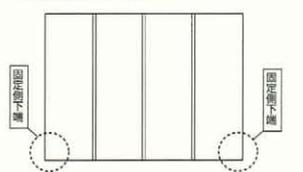


●扉下部の固定

- ※ピボットタイプとして本体を使用する場合は、本体用部品セットに同梱のピボット固定金具を用いて本体固定側の下端を固定してください。

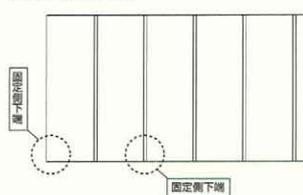
- ①本体を正しい位置に移動させて、本体の垂面がでているか確認します。
- ②ピボット固定金具可動部を下図のように長手方向に向けます。

●本体2体固定の場合



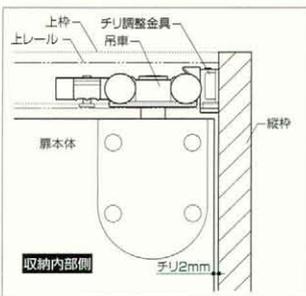
●ピボット固定金具

●本体3体固定の場合



●ピボット固定金具使用数量

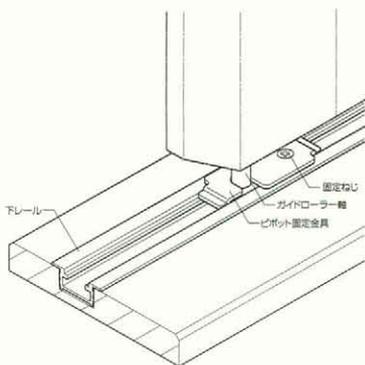
数量	数量
本体1体固定の場合	1個
本体2体固定の場合	2個
本体3体固定の場合	3個
本体4体固定の場合	4個



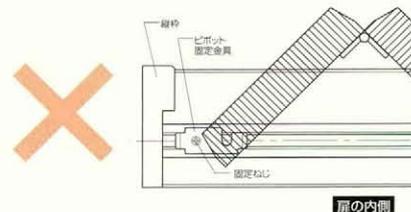
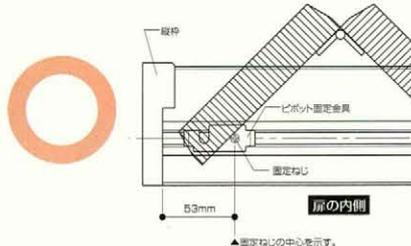
【ピボット→フリーの変更】

- ※吊車の吊車固定ねじを、ねじの回転が重くなるまでゆるめてください。開閉不具合の原因となります。

- ③ピボット固定金具可動部を長手方向に保ったまま、ピボット固定金具を下図のように向け、U字型の切欠き部分をガイドローラーに合わせ、下レールにのせます。



- ④ピボット固定金具の取付け向きは、下図のように固定ねじが扉の内側になるよう、取付けてください。
- ⑤ピボット固定金具の固定位置は、下図を参照してください。



- ⑥固定ねじをプラスドライバーで右に回します。ピボット固定金具が動かないよう固定されたかどうか、確認してください。
- ※尚、再びピボットからフリーにするときは、固定ねじを左に回しねじをゆるめてピボット固定金具を回転させながら外してください。

商品特長
商品一覧

室内ドア

室内引戸

クローゼット
ドア

戸襖

規格表

室内ドア

室内引戸

クローゼット
ドア

戸襖

有償部品

特注
対応品

ガラス寸法

基本寸法
納まり図

組立施工説明
お手入れ方法

発注書

用語解説
索引